

業部學説の趨進と壓迫は反動的イデオロギー武裝のための如貨を問題であり、國策部議會の設置は、岡田内閣支分のためよりも議會の權限を過半代行する此の機關こそフアシズムの意義を更に多く持つものと言へよう

自由主義は敗北しフアシズムの勢力は増大しつつある。

これが動向は復古主義、愛國主義を煽り、國際危機を絶叫せしめて、然競争熱を煽りその準備に急がしめ國內無産階級の生活負擔を背負ならしめて、極度に言論の自由を封鎖する。

③階級陣營の概況

1、一九三一年を轉機とするフアシズムの勢力増大の反動期政勢に入つてから、日本無産階級の陣營は鬱蒼しき沈滞に陥れてゐる。即ちプロレタリア前衛の潰滅、滔々たる左翼の轉向

同時に依つて来る右翼陣營の擴大、然も吾國唯一の大宗政黨たる社大黨の右翼化など、自強なく進行し階級運動史上未嘗有の反動的傾向を形成してゐる。

資本主義の全体的な矛盾の危機は益々深化し、其の強力支配の背誦を押壓から大衆の經濟的自然發生的な抗争は凡ゆる分野に加て増進し遂行されてゐるが、現在の非常時情勢に基く一般的な社會的空氣とその壓力のため客観的には闘争力昂揚の可能な條件が附されてゐるにも拘らず尙資本への積極的な労働攻勢に展開し得ない。然も與憲的な經濟現象は、軍需關係の特殊産業部門に好況を呈しこの方面の労働者をして闘争力を弛緩せしめ、その悪影響をさへ他に流布してゐることも事實であるか今や客観状況の深刻な矛盾動搖から労働者の逆襲的攻勢の激進は進行しつつある。